

第2章 「ひろしま平和発信」 医学部の取り組み

1. 合同開催科目教養ゼミ 活動実績・成果

- (1) 科目形式 既設・開講
- (2) 科目名 合同教養ゼミ
- (3) 対象 医学部 1年生 (医学科、保健学科) 計 226 人
内訳(医学科 109 人、保健学科 117 人 計 226 人)
- (4) 実施日 平成 26 年 6 月 18 日 (水)
午後 14 時 35 分～16 時 05 分
- (5) 場所 広島大学医学部 第 5 講義室
- (6) 単位コマ数 2 単位 (前期) 計 15 コマ
(内合同開催コマ数 講義 1 コマ)



- (7) 目標 現場で学習した卒業生の多くが、平和への取り組み方や「ヒロシマの心」を理解し、日本全国、さらには世界各地で、平和共存社会の実現に向かって貢献できるようにする。

- (8) 概要 司会：栗井 和夫 教授

- ①COC 概要 講師紹介 医学部学部長 木原 康樹
- ②講演 「君はヒロシマを見たか」 広島平和記念資料館 志賀 賢治館長
- ③ひろしま平和発信科目の歯学部の取り組み紹介 COC 特任助教 錦織 良

- (9) 内容

資料館 60 年の歴史意義と役割について解説された。原爆投下当日、外国人 (約 10 カ国) も被爆していたというあまり知られていない事実にも触れられた。広島大学の南方留学生も多数被爆されていた。また血が滲んだ花柄ワンピースの写真を紹介し、遺品の裏に隠されている「一人ひとりの苦しみ・悲しさ」を強調された。「原爆は威力で知られたか、人間的悲惨として知られたか」(原爆白書運動の金井利博氏)「想像力・共感力を働かせて感じる力」(オリバー・ストーン監督)などの言葉を引用し、きのこ雲の下で何がおこったかを理解し、心で感じ、継承することの大切さを心に刻んだ。

- (10) 成果

将来、医療人となる医学科、保健学科の学生たちは、キーワードや参考となる資料などの題名をメモしながら、熱心に講演を聴いていた。講義終了後、演習に参加したいというボランティアの申し出が数名あった。その内、実際に 1 名が歯学部の学生と一緒に夏期演習に取り組んだ。「平和を発信するために、自分にできることは何かないか」という意識が学生達の間広がったことで、改めて「平和を希求する大学」の建学精神を継承する大切な授業であると認識した。

